

より良く守るために知識を得る

子どもと若者の性的行動

性的問題行動とは？
対応について

**sexual-
violence
.info**

3-5歳の性的行動	2
小学生の性的行動	5
中学生の性的行動	8
どのように対応し、誰に助けを求めるか?	10

これは、子どもや若者と関わる保護者および専門職が、子どもと若者の性的な行動について情報を得るための冊子です。

この冊子は、観察した行動が発達段階にみられる性的好奇心なのか、それとも専門家の助けを要するサインなのか判断の手助けをすることを目的としています。

性は人生の一部です。大人は子どもたちが開花し、自分を守り、必要なときには相談することができるよう、方法を伝えるという役割を担っています。ただし、この伝達の際、子どもを一人の人間として尊重し、役割の混乱を避ける必要があります。役割の混乱とは、専門職である場合、親でも友達でもない専門職としての関わりが求められるということです。同じように、親も専門職も、性を話題にするとき決して自身の性の話をするべきではありません。子どもに性に関する詳細を聞くべきでもありません。自分より年下に対し、自分が同年代や友達であるかのように話すべきではありません。役割が混乱しないよう気をつけ、大人として未成年に接します。医者ではないのに医学的知識を披露しようとしたり、専門ではないのに専門家として対応しようとするべきではありません。必要に応じて専門家を探しサポートを求めることが重要です。

自分の身体を知り、他者の身体について知ることは、世の中を知り、探求する手段の一つです。

性的行動は非常に多様です。その行動が問題であるか否かに関わらず、すべての行動一つ一つがその子どもにとっては何かしらの意味を持っています。「性的行動の標準」は存在しません。

次のページから始まる表では、子どもと若者の性的行動についての指標が示されています:

- **探索行動：発達段階に即した性的行動。**
- **心配な行動：行動の頻度や、大人から説明があっても継続することなどから、より丁寧な対応を要する行動。**
- **専門家の助けが必要な行動：子どもが性に関して混乱している可能性があり、専門家の助けを必要とする性的行動。**

3-5才の性的行動

この表はToni Cavanagh Johnsonの研究と『Comportement sexuel des enfants』(2013)を参考に作成しています。

探索行動	心配な行動	専門家の助けが必要な行動
プライベートゾーン、性関係や赤ちゃんについての質問をする。	年齢に合った説明を既にしているにもかかわらず、何度も質問をする。	既に説明を受けていることについて知らない人にまで質問する。年齢より性に関する知識が豊富。
子どもと大人の男女の違いに関心を持つ。	既に説明しているにもかかわらず男女のプライベートゾーンの違いについて何度も質問する。	男女の違いに関する遊びで怒ったり悲しんだり攻撃したりする。
裸の人がいたら見ようとする。	何度も見たことがあるのに裸の人をしつこく見る。	他の人に洋服を脱ぐように言う、他の人の服を脱がそうとする。
体やプライベートゾーン、性的関係を表現するのに悪い言葉を使う。	適した行動ではないと注意しても悪い言葉を使い続ける。	何度も大人が適した行動ではないと注意しても悪い言葉を使う。
パパとママごっこをする。	性的行動を何度もしつこく真似する。	他の人に誰かの真似をするよう強制する、性的行動と一緒にするようせがむ。
おままごとやお医者さんごっこなどのときに他の子どもの体を触ったりしようとする。	何度も、ときに強迫的に体を触る機会のある同じ遊びをする。	体を触る機会のある遊びを他の子どもに強制する。
プライベートゾーンを絵に描く。	プライベートゾーンの絵を頻繁に描く、または強調して描く。	プライベートゾーンの絵を強迫的に描く、性的関係の絵を描く。

探索行動	心配な行動	専門家の助けが必要な行動
赤ちゃんがほしいと言う。	何度も赤ちゃんが生まれたという遊びをする。	赤ちゃんがいると怒りや不安を表現する。(乳幼児期に起きたことが想起させられている可能性がある)
トイレやお風呂にいる人を観察しようとする。	注意されてもしつこく他人がトイレやお風呂にいるのを観察しようとする。	他の人がトイレやお風呂にいるときにプライベートな時間を尊重することが大事であると説明しても、理解しようとしめない。
裸でいるのが好きで、自分のプライベートゾーンを人に見せようとすることがある。	適した行動ではないと説明されても人前で裸になろうとする。	洋服を着ることを拒否する。適した行動ではないと大人が説明してもプライベートゾーンを人に見せようとする。
プライベートゾーンを着替えのときや寝るときに触り安心する。	人前でプライベートゾーンに触ることが適した行動ではないと説明しても頻繁に触る。	プライベートゾーンが傷つくくらい、もしくは、他の活動に参加しなくなるくらい触る。
よく知っている人のプライベートゾーンを手や体で触る。	やめるように言ってもよく知っている人のプライベートゾーンを手や体で触り続ける。	他人のプライベートゾーンを頻繁に触り、そのことについて話そうとすると否定する。
子どもや大人にとっても近づくことがある。	あまりよく知らない大人や子どもにもとても近づく。	適した行動ではないと説明しても、知らない人やあまり親しくない人に体をくっつけたり、とても近くに行く。
勃起する。	勃起する頻度が多い。	勃起することを悩んでいる。

探索行動	心配な行動	専門家の助けが必要な行動
便や尿に関心がある。	便や尿で遊ぶ。	大人から説明を受けても便や尿で遊ぶ。遊んでいる際に怒っていることがある。(性暴力や他の問題が隠れている可能性)
性的な場所や肛門に指や物を入れようとするがあった。	大人から説明を受けても、自分または他人の性的な場所や肛門に指や物を入れようとする。	大人から説明を受けても、自分または他人の性的な場所や肛門に指や物を無理やり入れようとする。

小学生の性的行動

この表はToni Cavanagh Johnsonの研究と『Comportement sexuel des enfants』(2013)を参考に作成しています。

探索行動	心配な行動	専門家の助けが必要な行動
プライベートゾーン、性交や赤ちゃんについて質問する。	好奇心がおさまらず何度も性に関する質問をする。	年齢にそぐわない性に関する知識がある。
友達と性について話す。恋人がほしいという話をする。	他の子どもが居心地が悪いと感じるほど性についての話をする。仲良くなるときにロマンチックだったり性的なニュアンスを加える。	性の話を一般化する。性の話をするとき他の子どもたちに居心地の悪い思いをさせる。
体とは違う性であると主張し、違う性の行動をとる。	特定の性に関してネガティブな表現をする。	自分の性器に関して気になる表現をする。
体や性交や性器に関して悪い言葉使いをする。	適した言葉づかいではないと大人から指摘されてもその言葉を使い続ける。	悪い言葉づかいを続けた結果エドゥケーターがついてもなお悪い言葉づかいを続ける。堂々と性的な内容の脅しや挑発を口にする。
お医者さんごっこ、おままごとなどの際に他の子どもの体を触ったり見ようしたりする。	このような遊びを繰り返す、強迫的にしようとする。	この遊びに参加することを他の子どもに強制する。
パパとママごっこをする。	性的な関係性を何度も再現しようとする。	遊びで性的な関係を真似するよう強迫する。
性やセクシャリティに関する遊びをするよう友達を誘う。	性やセクシャリティに関する遊びに年下の子どもや知らない子どもを誘う。	性に関する遊びをするよう他の子どもに強制する。

探索行動	心配な行動	専門家の助けが必要な行動
裸の人の絵を描くときに性器を描く、ふざけて性器の絵を描く。	性器の絵を頻繁に描く。性器が強調された絵を描く。	性器の絵を頻繁に、または強迫的に描く。性交に関する絵を描く。
赤ちゃんがほしいと言う。	赤ちゃんが生まれる、いるという遊びを頻繁にする、または強迫的にする。	赤ちゃんに対し繰り返し怒りや攻撃性を示す。
トイレやお風呂にいる人を観察しようとする。自分がトイレにいるときや洋服を着るときに一人にしてほしいと望む。	頻繁に他人がトイレやお風呂にいるのを観察しようとする。観察するとき凝視していることがある。	他の人が一人でトイレに行こうとするのを妨害する。他の人がトイレやお風呂で一人にしてほしいということ尊重しない。
裸の人を見る機会があったら見ようとする。	何度も見たことがあるにも関わらず、しつこく見ようとする。隠れてまで見ようとする。	他の人に裸になるよう頼んだり、強制したりする。
他の人のプライベートゾーンを見ようとする。	他の人が居心地が悪くなるほど、他の人のプライベートゾーンを見ようとする。	他の人の胸やプライベートゾーンを見ることをやめられない。隠れて見る機会を作ろうとする。
ポルノではない裸を見ようとインターネットや動画や雑誌で探す。	裸の写真や映像について固執する、ポルノ画像や動画を意図的に見る。	裸の写真やポルノを見て自慰行為をする、これらを他の人に見せようとする。
動物が性交するのを見たいと言う。	動物の性器や胸を触る。	動物に対し、性的な行動をする。
プライベートゾーンを触ったりこすったりする(ゆっくりしているとき、寝る時など)	適した行動ではないと指摘されても人前でプライベートゾーンを触ったりこすったりする。性器を人に見せようとする。	プライベートゾーンを挑発のために見せたり、怒りを表現したりする。

探索行動	心配な行動	専門家の助けが必要な行動
他の同年代の子どものプライベートゾーンを触ろうとしたり、自分のを触ってもらおうとする。	他の子どもが居心地が悪くなるくらい、他の子どもに触るように言ったり、他の子どもを触ったりする。	プライベートゾーンを触るよう他の子どもに強制する。または、他の人に触られたまま逆らわない。
よく知っている子どもや大人に抱きつく。他の子どもや知っている大人に抱きつかれるのを受け入れる。	あまりよく知らない子どもや大人にさえ抱きついたりする。愛情表現をされると不安を表現する。	他の子どもや大人が居心地が悪く感じるくらい抱きつく。愛情表現している他の子どもや大人に対し怒りや攻撃性を示す。
勃起することがある。	勃起が続く、勃起することを心配に思っている。	勃起に痛みを伴う、勃起を止めようとして痛がる。包皮がとれるときに痛みがある。(包皮を無理にはがすことは推奨されていない)
探索のため、指や物を性器や肛門に入れてみる。	他の子どもの性器や肛門に指や物を入れようとする。	痛くなるほど指や物を性器や肛門に入れる、またはその結果傷ができる。

中学生の性的行動

この表はToni Cavanagh Johnsonの研究と『Comportement sexuel des enfants』(2013)を参考に作成しています。

探索行動	心配な行動	専門家の助けが必要な行動
思春期の変化、子どもができること、性、避妊、性的喜びについて質問する。	年齢に合わない性に関する質問をする、もしくは性に関する質問をする頻度が多い。	性に関する話をすることを拒否する、もしくは性に関する知識が全くない。
性に関する話を友人とする。	リスク行動をとる可能性のあることを話している。	自分にとって、もしくは他人にとってリスクとなる性的行動をしている可能性がある。
自分の性的アイデンティティを模索する、違う性別の行動を取り入れる。同性や異性に恋愛感情を持つ。	軽蔑的だったり失礼な言動を特定の性別や性的指向の人にする。ホモフォビア的言動。	特定の性別や、性的指向の人に対し攻撃的な言動をする。
同年代と同意の上で性的な行動を試す。	同年代との性的な探索行動のなかで、同意において混乱がある。	性行動を5才以上離れた人とする。同意がない性行動をする。
自慰行為をする。	プライベートではない場所で自慰行為をする。公的な場所や、ネット上など。	強迫的にする自慰行為。
子どもができること、親になることについて質問する。	性的リスク行動がある。妊娠、中絶、避妊をしない性行為など。	望まない妊娠をした。相手が望まない妊娠をするということがあった。
性感染症についての質問をする。	性感染症の観点からみてリスクのある性行動をしている。	性感染症にかかったことがあるが行動を変えていない。リスクの高いパートナーとの性行為の際に対策をしていない。

探索行動	心配な行動	専門家の助けが必要な行動
性に関するファンタジーや好みがある。	性に関する考えや行動に伴う苦しみを感じられる(恥ずかしい、話せない、不安、傷つけられる、誰かを傷つけるなどの感覚)	他の活動に影響を及ぼすほど性に関するファンタジーや行動にエネルギーをつかっている。
気に入られたくてとる行動が、相手を困惑させることがたまにある。	気に入られたくてとる行動が他の人を頻繁に困惑させている。	性的ハラスメント行動。
性的な好奇心を示す。	性的な好み犯罪につながるリスクがあるものである(同意のないセックスなど)	同意がなかったり攻撃的な性行動がある。
特別な機会に同意のもとセックスをする。	セックスをするときアルコールを利用するため同意能力が不確実である恐れがある。	セックスをするとき常にアルコールを利用する。
ポルノや性的な表現のある作品を見ようとする。	ポルノや性的な表現のある作品を見ることで苦しみを感じている(自分に対するマイナスのイメージ、恥、たくさん観たい気持ちを止められない、痛くなるまで自慰行為をする)	他の活動にエネルギーを割けないくらいポルノの視聴や消費をしている。(他のことをしたいと自分で思っているのに観てしまう)
恋愛関係のある相手とプレゼント交換をしている。	自分の得たいものが目的で恋愛関係を築く。	お金や物と引き換えに会ったり写真を撮られたり写真を送ったりする。売春。

どのように対応し、誰に助けを求めるか？

性的問題行動への対応

ステップ1: 観察と分析

- 行動の頻度、コンテキスト、行動の変化について把握する。
- 強制や苦痛のサインがないか確認する。

ステップ2: 明確な教育的枠組みの提示

- 年齢やコンテキストに応じた適切な制限、許可されていること・禁止されることについて確認する。
- 必要に応じた教育的な関わりを行う。

ステップ3: 必要に応じ専門機関への連絡

- 同僚や上司に情報を共有する。
- 問題行動が継続している、または心配な場合、専門の医療機関に相談し、一緒にサポートしてもらう。
- 危険がある場合や法に触れる場合（疑いも含む）、該当機関に連絡する。

子どもや若者の行動で気になることがあるとき、最も建設的な対応は、専門職自身が落ち着いて、その子どもや若者が自分で考えられるように導くことです。大人が温かい見守りの姿勢を貫くことで、子どもが責められたり、不安になったりすることなく話し合いができるようになります。

心配な事柄について一人で抱えないことが重要です。このような状況について頼ることができる専門家として、児童精神科医、心理士、セクソロジストなどがいます。保健センターの保健師、スクールカウンセラーなどに相談することもできます。

未成年が被害者や加害者である場合は、警察へ届け出ることが義務付けられています。

- 児童相談所虐待対応ダイヤル189
- 性犯罪、性暴力被害者のためのワンストップ支援センター #8891
- 警察、市町村の子ども家庭支援窓口、保健センターの保健師、教育委員会
- スクールカウンセラー、養護教諭
- 児童精神科・発達外来 / 思春期外来 (加害の場合)
- チャイルドライン (0120-99-7777) 子ども自身が電話で相談できる
- 24時間子どもSOSダイヤル (0120-0-78310)
- 性暴力救援センター 「性暴力 センター 地域名」で検索してください。
- 外国にいるときdontlookaway.report

無料の啓発、予防ツールをご利用ください

sexual-violence.info

CRIAVS Île-de-France は、サン＝モーリス病院（公的医療機関）の一部門です。性暴力の加害者に関わる専門職を対象としたリソースセンターであり、研修を実施し、支援を提供し相談を受けます。CRIAVS Île-de-France は、年間を通じて専門職向けに無料の研修やイベントを開催しています。詳細は criavs.fr をご覧ください。

また、インターネットサイト violences-sexuelles.info は、アソシエーションUne Vie®と共同で運営されています。Une Vie®は性暴力の予防に取り組んでいます。詳細は 1vie.org をご覧ください。

